市民の命を守る熱中症対策は

高齢者をはじめリスクの高い方への注意喚起や実践できる予防対策を分かりやすく周知する



内藤（ないとう） 喜久枝（きくえ）
自由民主党田原市議団

動画へGO

市民の命を守る熱中症対策について

問 **市民の命を守る熱中症対策は。**

答 高齢者をはじめリスクの高い方への注意喚起や日頃から実践できる予防対策を分かりやすく周知し、関係機関と連携しながら熱中症による健康被害の防止に万全を期す。

問 **今後のクーリングシェルターの拡大について、市の考えは。**

答 今後も民間施設を含め、地域の実情を踏まえながらさらなる設置の拡大を推進していく。

問 **熱中症の救急要請における場所と発生傾向は。**

答 発生場所は住居が最も多く、全体の約5割を占めている。次いで工場や農畜産等の仕事場での要請が約2割となっている。

問 **熱中症は後期高齢者の割合が最も多く、全体の4割を占めているが、特に1人暮らしの在宅高齢者に対しての取り組みは。**

答 引き続き地域での声かけ等をお願いするとともに、ボタンを押すと相談や緊急事態に対応できる緊急通報システムの導入をしている。

問 **過酷な暑さから農業者を守り、少しでも安心して作業を行える環境を整えるための市の支援策は。**

答 作業の効率化や省力化につながるスマート農業の推進に努めている。スマート農業技術の導入は、作業時間の短縮や作業負担の軽減につながる有効な支援策であると考えている。



臭気調査を契機として、どのような対策に取り組んでいくのか

積極的に情報収集し、効果的な臭気対策に取り組んでいく



中村（なかむら） 健太郎（けんたろう）
国民民主党田原市議団

動画へGO

将来を見据えた地域環境づくりについて

問 **悪臭対策について、本市の重要な基幹産業である農畜産業を守りながら地域住民の生活環境も守る、産業と暮らしの共存をどのように実現するかという視点が重要と考える。これまでの対応の評価と、今後の対策は。**

答 相談や苦情に対し、現地確認や改善指導を実施、未然防止対策として広報や週3回のパトロールによる啓発、施設改修への補助などを行ってきた。管理状況の改善や苦情の減少は見られるが、課題は残っている。今年度、新たに豊橋技術科学大学と連携し、どのような気象条件でどこまで臭気が届くかを科学的に調査する。これまでのパトロールや施設改修支援、県と連携した立入り調査を継続しつつ、この調査結果を畜産農家などと共有し、より効果的な対策につなげていく。

問 **畜産臭気の低減のため、今後どのような対策に取り組むのか。**

答 新たな対策の研究や臭気対策に効果のある新たな技術、他自治体の取組事例などを積極的に情報収集し、畜産農家と連携しながら効果的な臭気対策に取り組んでいく。